「骨と関節の日」に寄せての当院の取り組み

友愛医療センター 整形外科　玉寄　美和

日本整形外科学会は10月8日を「骨と関節の日」と定めました。国民の皆様に、骨と関節を中心とした体の運動器官の健康が、体の健康の維持にいかに大切であるかを認識し、日常生活で注意していただきたいと考えたからです。ホネの「ホ」は「十」と「八」に分かれますので、10月8日となったわけです。

ところで、高齢者に多い大腿骨近位部骨折の人口10万人あたり発生率は、沖縄県は男性が全国ワースト1位、女性が全国ワースト2位であることはご存知でしょうか？全国調査の結果、沖縄の男性は最も骨折が少ない秋田の男性と比べて2倍以上骨折しやすかったことが判明しています。（2017年）

当院は急性期病院で、年間約200人の大腿骨近位部骨折の患者さんを治療しています。急性期病院の役割として、これまで骨折に対する手術を行い、リハビリを開始してきました。しかし果たしてそれだけで良かったのか疑問が残ります。患者さんはただ転んだから、高齢だからという理由だけで骨折したわけではなく、骨粗鬆症が基盤にあり骨折したと考えるべきです*。

＊原発性骨粗鬆症の診断基準（2012年改訂版）より抜粋

表2　原発性骨粗鬆症の診断基準（2012年度改訂版）

低骨量をきたす骨粗鬆症以外の疾患または続発性骨粗鬆症を認めず，骨評価の結果が下記の条件を満たす場合，原発性骨粗鬆症と診断する。

I. 脆弱性骨折（注1）あり	
1. 椎体骨折（注2）または大腿骨近位部骨折あり	
2. その他の脆弱性骨折（注3）があり，骨密度（注4）がYAMの80%未満	
II. 脆弱性骨折なし	
骨密度（注4）がYAMの70%以下または−2.5SD以下	

YAM：若年成人平均値（腰椎では20〜44歳，大腿骨近位部では20〜29歳）

注1　軽微な外力によって発生した非外傷性骨折。軽微な外力とは，立った姿勢からの転倒か，それ以下の外力をさす。

注2　形態椎体骨折のうち，3分の2は無症候性であることに留意するとともに，鑑別診断の観点からも脊椎X線像を確認することが望ましい。

注3　その他の脆弱性骨折：軽微な外力によって発生した非外傷性骨折で，骨折部位は肋骨，骨盤（恥骨，坐骨，仙骨を含む），上腕骨近位部，橈骨遠位端，下腿骨。

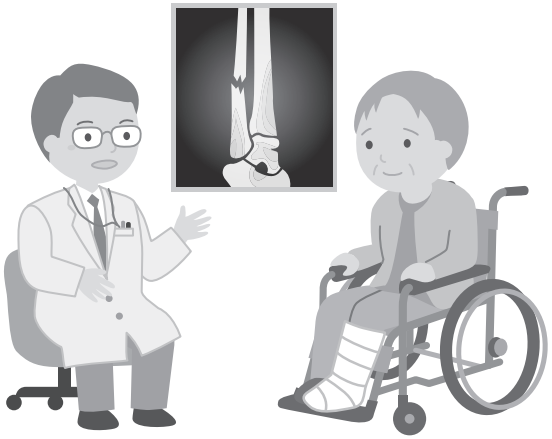
注4　骨密度は原則として腰椎または大腿骨近位部骨密度とする。また，複数部位で測定した場合にはより低い%値またはSD値を採用することとする。腰椎においてはL1〜L4またはL2〜L4を基準値とする。ただし，高齢者において，脊椎変形などのために腰椎骨密度の測定が困難な場合には大腿骨近位部骨密度とする。大腿骨近位部骨密度には頸部またはtotal hip（total proximal femur）を用いる。これらの測定が困難な場合は橈骨，第二中手骨の骨密度とするが，この場合は%のみ使用する。表3に日本人女性における骨密度のカットオフ値を示す。

付　記

骨量減少（骨減少）［low bone mass（osteopenia）］：骨密度が−2.5SDより大きく−1.0SD未満の場合を骨量減少とする。

骨折の治療だけを行い、無事に骨折が治ったとしても、原因となる骨粗鬆症を放置すると、患者さんの再骨折を生じるリスクは残ったままです。高い確率で次の骨折（二次骨折）を起こすことが想像されます。大腿骨近位部骨折を起こした女性が5年以内に再骨折するリスクは、骨折したことのない女性の16.9倍という報告があります。そのような報告があるにも関わらず、骨折を起こした1年後に骨粗鬆症治療が継続できていたのは、たったの20%とされています。

このような事態を踏まえ、当院では今年度から骨折リエゾンサービス（FLS：Fracture Liaison Service）を開始しました。当院で骨折治療を行った患者さんに介入し、骨粗鬆症の評価、治療を開始し、さらには継続的に治療が行われているかフォローをします。これは医師の他にも、薬剤師、看護師、リハビリ、栄養士など多職種で行うもので、投薬、運動、栄養など様々な面で介入できます。時間に制限のある医師だけでなく多職種が介入することでお互いカバーしあって治療介入の漏れをなくし、患者さんや家族の病識や治療受け入れを多方面からサポートし、スムーズに治療を開始できると考えています。FLSを行うことで骨折率を18%下げることができると言われています。

しかしFLSを完結させるには、地域のかかりつけの先生方のご協力が必要です。なぜなら、急性期病院で患者さんを長期にわたり継続して診ることは出来ません。骨折が治れば急性期病院に通院することはなくなり、骨粗鬆症の治療がそこで中断すれば、患者さんはまた骨折しやすい状態に戻ります。かかりつけ医が治療を引き継いでくださることで、骨粗鬆症の治療は繋がっていきます。リエゾンは「つなぎ」の意味のフランス語なのです。かかりつけの先生方は、現時点で骨折後に骨粗鬆症の治療が開始されていない方、中断されている方がおられたら、是非治療の開始、再開をお願い致します。または骨折治療を行った病院までご紹介ください。ご存知の先生方も多いと思いますが、今年4月の診療報酬改定で、新たに二次骨折予防継続管理料が算定できるようになりました。今後の当院の取り組みとして、地域連携を活用して、骨粗鬆症の治療や定期検診をスムーズに病診連携できればと考えています。これこそがリエゾンなのです。

今回は沖縄県医師会報ということで、県内における骨粗鬆症治療の必要性について整形外科医だけではなく多くの専門科の先生方の心に響けばと思い書かせて頂きました。私たちが連携して取り組めば、沖縄県を全国ワースト1位から、全国で一番骨折しにくい県にすることは可能だと思います。皆でちゃーがんじゅー沖縄を取り戻しましょう！